

2021 年度実施概要

学校名

三原市立木原小学校

採択活動名

木原エコプロジェクト

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. ストップ！海洋ごみ	5・6	総合的な学習の時間

取り組みの概要

本校は二つの山に挟まれた谷にあり、学校の横には柳川という川幅 2 m 程度の小さな川が流れている。上流に行けば自然な川の形が残っている一方で下流域には人家があるため、上流の砂防ダム建設も含めて、土砂災害等に備えた整備が進められている。JR 山陽本線の線路と旧国道 2 号線の向こうには瀬戸内海が広がっているが、工場も点在しており周辺の海岸ほぼ全て護岸工事が施されている。また、学校の目の前には無人島の鯨島が浮かんでおり豊かな漁場として知られている一方、近年はカワウが産卵場所にして棲み着き、生態系に影響が出始めている現状がある。このように、周辺には学習のテーマになるような材料が豊富なことも特徴の一つと言える。

本校の教育研究では「育成を目指す資質・能力」として各教科・領域等で求められる知識・技能と ICT の基礎的な活用技能を身に付けさせること、論理的思考力を身に付けさせること、自信・主体性・協働に関わる力を涵養することの 3 つに設定し、全教育活動の中でこれらを育成することを目指している。研究主題を「21 世紀型能力である資質・能力を育成する生活科・総合的な学習の時間の創造～ESD・SDGs の視点からの授業の再構築～」とし研究を進めてきた。特に SDGs の 17 の目標の中から、本校の周辺環境をかんがみて 14（海の豊かさを守ろう）15（陸の豊かさを守ろう）12（つくる責任つかう責任）の 3 つを中心に据えて学習を展開している。

そこで、年度初めすぐに、校区の町歩きや地域の方へのインタビューを実施した。そこで得た情報を基にイメージマップを作成し、木原における「海の豊かさ」を考えた結果、「多様な生物が息息可能で、海洋ごみの無い海こそが豊かな海である」という共通イメージを持った。次に SDGs とは何かということについて学習した。SDGs スタートブックという教材の取り寄せや、広島県の環境政策課との連携などを行い、様々な視点から SDGs について理解できるようにした。その後、校区の木原海岸および柳川での調査と島根県浜田市での日本海調査を行い、海洋ごみ問題の現状把握を進めた。

これらの調査を踏まえ、児童は「ごみ問題をマイナスイメージのみで発信していても、広く興味を持ってもらえず、豊かな海の達成には繋がらないのではないか」という考えを持つようになった。そこで、シーグラスアート作家を講師として招き、自分たちに海のゴミを用いた作品作りについて教えてもらうことにした。SNS を活用して講師と連絡を取り、自分たちの手で活動の実現までこぎつけるという経験を積ませた。

また、これらの内容について東京大学附属海洋教育センター「2021 年度海洋教育研究会」や、沖縄県竹富町立古見小学校・島根県奥出雲町立鳥上小学校他県の児童との交流で発表し、様々な観点からのフィードバックを受けた。

【活動】 1. 柳川調査 2. 木原海岸調査 3. インターネット調査



海へ注ぎ込む川の状況を調査場所によって違いはあるのか

上流 中流 下流

僅かではあったが下流へ行くにつれてバックテストが示す水質の数値は悪化

直感的にはなく、科学的に環境の状況を判断する経験と方法の習得
数値の違いから、人家が与える影響が関係していると論理的に予想

【活動】 1. 柳川調査 2. 木原海岸調査 3. インターネット調査



木原海岸における海洋ごみの現状について調査
マイクロプラスチックは木原にも実在するのか？

実際に足を運ぶことで得られた「認識のズレ」そして、地域の「自覚」であった海に対する新たな視点を獲得

マイクロプラスチック
=紫外線の影響により直径5mm以下になったもの
PE/PEI/PP/PS/パレット/不燃物（シーグラス）を収集

【活動】 1. 柳川調査 2. 木原海岸調査 3. インターネット調査



自分たちが調べた「木原の自然環境の状況」と世界の状況とを比較

一人一人がICT端末を用い、インターネットで調べた内容やこれまでの学習をまとめた成果物を作成
情報を吟味（整理・分析）して必要なものを適切にまとめる力とICT活用スキルを醸成

【活動】 1. 柳川調査 2. 木原海岸調査 3. インターネット調査



専門家から教わりたい！

自分たちの思い・願い
↓
自分たちの手で実現させる

ネットを活用した
講師さがしと連絡
特別授業の開催

思い・願いを実現させるための適切なSNS活用経験
成功体験から得られる成就感・自己実現力の高まり

「豊かな海」を目指して次のステップへ

●議論してみよう

1. 自分の意見を発表する
2. 友達の意見にコメントする（こんな点にも納得！ここは疑問がある。）
3. 議論をすすめる（～に賛成です。～に反対～だと思えます。）

●ルール

ア：最後まで黙く、次にどう発言をつづけるかわからないから…
イ：なるほど、いいね、わかるよ、この方がよくない？
ウ：理由や根拠を明確に、事実と意見を区別して

児童同士の議論による合意形成をベースに進めていく学習
ICTを用いた議論と、面と向かって話し合う議論
それぞれの“よさ”を区別して適切に使い分ける

複式教育の「見守り型指導」を発展させる
主体的・対話的な学びの実現
ファシリテーターとして指導スキルの確認

ICTでこれまでと違った発信・交流を

東京大学附属海洋教育センター「2021年度海洋教育研究会」での実践発表

島根県出雲町立島上小学児童とのオンライン交流会での学習報告

講師のシーグラス作家への依頼と授業内容確認などの事前打ち合わせ

学習の成果を直に伝え、フィードバックを得ることができる